

アイ・チョー・クリスティン

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.otafinearts.com/ja/artists/33-ay-tjoe-christine/>

1973 年、インドネシアのバンドンに生まれる。1997 年、バンドン工科大学美術学部を卒業。ドライポイントなどの凹版印刷の技術を習得した後、テキスタイルデザイナーとしてキャリアを積み、2000 年頃からアーティストとしての活動を本格的に開始した。キリスト教の説話や精神的主題に基づいて表現を行うアイ・チョーの作品は、人間の不完全性や二面性についての深い洞察に裏付けられている。2015 年、アジアの現代美術における優れた新進アーティストを顕彰するプルデンシャル・アイ・アワード（絵画部門）を受賞。2018 年には金沢 21 世紀美術館にて個展「アイ・チョー・クリスティン 霊性と寓意」が開催された。

略歴

- 1973 インドネシア、西ジャワ州バンドン生まれ
- 1997 バンドン工科大学美術学部卒業

主な個展

- 2002 「At The Day of German Unity」 German Embassy（ジャカルタ、インドネシア）
「Reach Me」 Cemeti Art House（ジョグジャカルタ、インドネシア）
- 2003 「Aku/ Kau/ Uak」 Edwin's Gallery（ジャカルタ、インドネシア）
「Eksekusi Ego」 Edwin's Gallery（ジャカルタ、インドネシア）
- 2006 「Silent Supper」 Ark Galerie（ジャカルタ、インドネシア）
- 2007 「Interiority of Hope」 Emmitan Gallery（スラバヤ、インドネシア）
- 2008 「Wall Prison (part two)」 Scope Miami Art Fair（マイアミ、アメリカ）
- 2009 「Eating Excess」 Singapore Tyler Print Institute（シンガポール）
- 2010 「Lama Sabakhtani club」 Lawanwangi（バンドン、インドネシア）
「Symmetrical Sanctuary」 Sigi Art Gallery（ジャカルタ、インドネシア）
- 2011 「The Famous One from Lucas」 Hermès Gallery（シンガポール）
- 2012 「The Path Less Found」 Michael Ku Gallery（台北、台湾）
- 2013 「Myriad of 'paste'」 オオタファインアーツ（東京）
- 2015 「Perfect Imperfection」 SongEun ArtSpace（ソウル、韓国）
- 2016 「Inside the White Cube」 White Cube（ロンドン、英国）
- 2018 「アイ・チョー・クリスティン 霊性と寓意」金沢 21 世紀美術館（金沢）
「The Black Side」 オオタファインアーツ（上海、中国）
「Black, kcalB, Black, kcalB」 White Cube（ロンドン、英国）
- 2021 「Spinning in the Desert」 White Cube（香港、中国）

主なグループ展

- 2001 「Refleksi」 Edwin's Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
「Perempuan」 Diseminasi dan Makna Ruang」 National Gallery
(ジャカルタ、インドネシア)
「Art Singapore」 Singapore International Convention and Exhibition Centre
(シンガポール)
「Philip Morris 2001」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
- 2002 「The 17th Asian International Art Exhibition」 Daejeon Municipal Museum of Art
(テジョン、韓国)
- 2003 「CP Open Biennale」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
「Beijing International Art Biennale 2003」 China National Museum of Fine Art, Beijing
(北京、中国)
「The 18th Asian International Art Exhibition」 Hong Kong Museum of Art
(香港、中国)
- 2004 「Weg」 Kunstverein Vreden (ヴレーデン、ドイツ)
「Equatorial Heat」 Shanghai Museum (上海、中国)
- 2005 「Taboo and Transgression in Contemporary Indonesian Art」
Johnson Museum, Cornell University (ニューヨーク、アメリカ)
「The Beppu Asia Biennale of Contemporary Art」 別府市美術館 (大分)
「Vision & Resonance」 Asian Civilization Museum (シンガポール)
- 2007 「Intimate Distance, Indonesian Women Artists」 National Gallery
(ジャカルタ、インドネシア)
- 2008 「Manifesto」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
「E-Motion」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
- 2009 「Bandung Art Now」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
「Indonesia Contemporary Drawing」 National Gallery (ジャカルタ、インドネシア)
「Art Paris」 Grand Palais (パリ、フランス)
- 2011 「Closing The Gap: Indonesian Art Today」 Melbourne International Fine Art
(メルボルン、オーストラリア)
「Future Pass」 Fondazione Claudio Buziol (ヴェネチア、イタリア)
Wereldmuseum Rotterdam (ロッテルダム、オランダ)
「Indonesian Eye: Fantasies and Realities」 Saatchi Gallery (ロンドン、英国)
- 2012 「Future Pass」 National Taiwan Museum of Fine Arts (台中、台湾)
- 2015 「Prudential Eye Award」 Art Science Museum (シンガポール)
「Our Nature: Ay Tjoe Christing + Zai Kuning」 オオタファインアーツ
(シンガポール)
- 2016 「Primal lines」 オオタファインアーツ (東京)
- 2017 「Summer Exhibition 2017」 Royal Academy (ロンドン、英国)
- 2018 「Memory Palace」 White Cube (ロンドン、英国)
- 2020 「We Do Not Dream Alone」 Asia Society Triennial (ニューヨーク、アメリカ)

今津景

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.imazukei.com/>
<http://anomalytokyo.com/artist/kei-imazu/>

Instagram : [@kei_imazu](#)

1980 年、山口県に生まれる。多摩美術大学絵画学科油画専攻を卒業後、同大学大学院を修了。デジタル描画ソフトで編集し作成した下図をもとに、キャンバスに油彩で描く手法で知られる。2018 年、インドネシア移住をきっかけに、現地でのリサーチやアーカイブをもとにした作品に取り組んでいる。

2009 年、「VOCA2009」にて佳作賞、2013 年、第 5 回絹谷幸二賞奨励賞を受賞。2020 年にはフランスの Prix Jean François Prat 2020 でファイナリストに選出された。ミネアポリス美術館に 4 メートルを越える大型の平面作品が収蔵されるなど、国内外で大きな注目を集めている。

略歴

- 1980 山口県生まれ
- 2005 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
- 2007 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域修了
現在、インドネシアのバンドンを拠点に活動

主な個展

- 2010 「Flash」 山本現代（東京）
- 2013 「PUZZLE」 山本現代（東京）
- 2015 「Broken Image」 山本現代（東京）
- 2016 「Repatriation」 山本現代（東京）
- 2017 「OVERGROWN」 ROH Projects（ジャカルタ、インドネシア）
- 2018 「Measuring Invisible Distance」 山本現代（東京）
- 2019 「Anda disini / You are here」 カスヤの森現代美術館（神奈川）
- 2021 「Mapping the Land/Body/Stories of its Past」 ANOMALY（東京）

主なグループ展

- 2009 「VOCA 2009」 上野の森美術館（東京）
- 2015 「PRUDENTIAL EYE ZONE」 ArtScience Museum（シンガポール）
「execution」 山本現代（東京）
- 2016 「Intimate Curiosity - Invitation to Japanese Collectors of Contemporary Art」
Hong Kong Arts Centre（香港）
「Welcome to the A W E S O M E M A N S I O N」 山本現代（東京）

- 「高橋コレクション マインドフルネス！2016」高知県立美術館（高知）
- 2017 「Perspectives」インターメディアテク（東京）
 「シルバニアファミリービエンナーレ 2017」XYZ collective（東京）
 「#10 Object manipulation」statements（東京）
 「Spring Fever」駒込倉庫（東京）
 「In Focus: Japanese Contemporary Art」Minneapolis Institute of Art
 （ミネアポリス、アメリカ）
- 2018 「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展」平塚市美術館（神奈川）
- 2019 「六本木クロッシング 2019：つないでみる」森美術館（東京）
 「Meet the Collection -アートと人と、美術館」横浜美術館（神奈川）
 「ARTJOG MMXIX Art In Common」Jogja National Museum
 （ジョグジャカルタ、インドネシア）
 「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」名古屋市美術館（愛知）
- 2020 「Tiger and Orchid」Click Square（バンドン、インドネシア）
 「—INSIDE THE COLLECTOR'S VAULT, VOL.1— 解き放たれたコレクション展」
 WHAT Museum（東京）
 「RELAY TO TOKYO - Inheriting and Gathering」
 The Byzantine and Christian Museum（アテネ、ギリシャ）
 「Prix Jean-François Prat 2020」（パリ、フランス）
- 2021 「We Are Here」Jessica Silverman Gallery（サンフランシスコ、アメリカ）
 「Galleries Curate RHE; Last Words」ROH Projects（ジャカルタ、インドネシア）
- 2022 「We paint!」Beaux-Arts de Paris（パリ、フランス）
 「1」ROH Projects（ジャカルタ、インドネシア）
 「Declining Distance」Selasar Sunaryo Art Space（バンドン、インドネシア）

主な受賞歴

- 2009 「VOCA2009」佳作賞
- 2013 「第5回絹谷幸二賞」奨励賞

鍵岡リグレアンヌ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.annekagioka.com/>

1987 年、神奈川県に生まれる。東京藝術大学絵画科油画専攻を卒業後、同大学大学院にて壁画を研究。その後フランスに渡り、フランス国立高等工芸美術学校にてフレスコ・モザイクの技術を学ぶ。「グラフィート」という古典的な壁画技法をベースに、布によるコラージュを加えた独自の手法で水面の反射を描いた「Reflection」シリーズや、そこから発展した「Figure」シリーズ、ルクセンブルクでのレジデンスを機に生まれた岩をモチーフにした新シリーズ「Element」など、日常の風景に潜む抽象的なかたちや、自然のもつエネルギーを表現した作品で知られる。

略歴

- 1987 神奈川県生まれ
- 2011 東京藝術大学絵画科油画専攻卒業
- 2013 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程壁画専攻修了
フランス国立高等工芸美術学校（パリ）フレスコ・モザイク学科へ留学
パリ国立高等美術学校（パリ）にてフレスコ制作・研究
現在、神奈川県に在住、活動中

主な個展

- 2021 「Transition」 MAKI Gallery [天王洲]（東京）
- 2019 「Reconstitution」 Annexes du Château de Bourglinster
（ブルリンシュター、ルクセンブルク）
- 2018 「A Moment of Immersion」 SAKURADO FINE ARTS*（東京）
- 2016 「Reflection: 2015-16」 SAKURADO FINE ARTS*（東京）
- 2015 「Anne KAGIOKA RIGOULET」 SAKURADO FINE ARTS*（東京）
- 2014 「Anne KAGIOKA RIGOULET」 SAKURADO FINE ARTS*（パリ、フランス）

主なグループ展

- 2021 「TECHNICOLOR'S 吉野石膏コレクション meets コンテンポラリー・アート vol.1」
表参道ヒルズ（東京）
- 2020 「鍵岡リグレアンヌ、石黒昭 二人展（AIR 交換プログラム活動成果報告展）」
遊工房アーツスペース（東京）
- 2019 「Colors and Figuration」 MASAHIRO MAKI GALLERY*（東京）
- 2018 「めざめるかたちたち Forms Awakening
（吉野石膏美術振興財団在外研修助成採択者成果発表展）」
スパイラルガーデン（東京）
- 2014 「L'éphémère Anne Kagioka et Lika Kato」 Galerie TOKO（パリ、フランス）

- 「Bi-Japan in Asia」 Stefania Castle（ブダペスト、ハンガリー）
「SELECTIONS」 SAKURADO FINE ARTS*（東京）
2013 「Anges ou Démons」 Villa Barbary（カロス、フランス）
「Ce qui fait notre corps」 パリ国立高等美術学校（パリ、フランス）
2012 「EDIROT」 Break ステーションギャラリー（東京）
2011 「10 ans déjà chez OSCARR」 Villa Barbary（カロス、フランス）
「日仏芸術祭 2011」 赤レンガ倉庫（神奈川）
2010 「La Faune et la Flore」 Château de Saint-Bonnet-le-Chastel
（サン・ボネ・ル・シャステル、フランス）
「Des Mythiques」 TransArtcafé（アンティープ、フランス）

川内理香子

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://waitingroom.jp/artists/rikako-kawauchi/>

1990 年東京都生まれ。2017 年多摩美術大学大学院を修了。身体と思考、それらの相互関係の不明瞭さを主軸に、食事・会話・セックスといった様々な要素が作用し合うコミュニケーションの中で見え隠れする、自己や他者を作品のモチーフとして、ドローイングやペインティングをはじめ、針金やネオン管など、多岐にわたるメディアを横断しながら作品を制作しているアーティストです。

略歴

- 1990 東京生まれ
- 2015 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
- 2017 多摩美術大学大学院美術学部絵画学科油画専攻修了

主な個展

- 2015 「SHISEIDO ART EGG vol.9 : Go down the throat」資生堂ギャラリー（東京）
- 2016 「Back is confidential space. Behind=Elevator」WAITINGROOM（東京）
- 2018 「Tiger Tiger, burning bright」WAITINGROOM（東京）
- 2018 「human wears human / bloom wears bloom」鎌倉画廊（鎌倉）
- 2020 「Myth & Body」日本橋三越・三越コンテナラリーギャラリー（東京）
- 2020 「drawings」WAITINGROOM（東京）・OUL by 美術手帖（東京）
- 2021 「afterimage aftermyth」六本木ヒルズ A/D ギャラリー（東京）
- 2021 「Empty Volumes」WAITINGROOM（東京）
- 2022 「Lines」VAN DER GRINTEN GALERIE（ドイツ）

主なグループ展

- 2015 「デッドヘンジ/エステティック」HIGURE 17-15 cas（東京）
- 2016 「Stereotypical」GALLERY PARC（京都）
- 2017 「ミュージアム・オブ・トゥギャザー展」スパイラル（東京）
- 2018 「ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」渋谷ヒカリエ 8/COURT（東京）
- 2019 「drawings」ギャラリー小柳（東京）
- 2020 「Input / Output」銀座蔦屋書店・アトリウム@GINZA SIX（東京）
- 2020 「Inside the Collector's Vault, vol.1 解き放たれたコレクション展」WHAT MUSEUM（東京）
- 2021 「TERRADA ART AWARD 2021 ファイナリスト展」寺田倉庫 G3-6F（東京）
- 2022 「VOCA 展 2022 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち -」上野の森美術館（東京）

清川あさみ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.asamikiyokawa.com/>

Instagram : [@asami_kiyokawa](#)

Twitter : [@Asami_Kiyokawa](#)

1979 年、兵庫県・淡路島生まれ。東京を拠点に活動。

服飾を学ぶと共に雑誌の読者モデルをしていた 2000 年代より”ファッションと自己表現の可能性”をテーマに創作活動を行う。

雑誌や SNS など、人々が日々関わる情報メディアやシステムが拡張する社会で、個人のアイデンティティを形成する”内面”と”外面”の関係やそこに生じる心理的な矛盾やギャップなどを主題とする。

偶然「糸」が写真の上に重ねて置かれたのを見たことから着想し、モデルとなる人物を撮影して、その写真に直接刺繍するという独自の手法をはじめ。 「糸」と写真のほかに、雑誌や本、布やキャンバスなど、ミクストメディアによる多様なビジュアル表現を展開する。

代表作として「美女採集」「Complex」「TOKYO MONSTER」などがあり、人がそれぞれ持つ人生のストーリーや、心の状態と社会状況の関係を作品化してきた。

水戸芸術館（2011 年）、金津創作の森美術館（2015 年）、東京・表参道ヒルズ（2012 年、2018 年）にて個展・展覧会を多数開催。

アートディレクターとして広告のビジュアルやグラフィックデザインに携わると共に、空間デザインや CM 映像の制作も行う。

また絵本作家としての活動も続けており、作家・谷川俊太郎氏と『かみさまはいるいない?』を共作。児童書の世界大会の日本代表にも選ばれている。

2020 年より淡路島の地方創生事業に南あわじ市地域魅力プロデューサーとして関わる。

略歴

- 1979 兵庫県生まれ
- 2001 文化服装学院アパレルデザイン科卒業
- 2022 大阪芸術大学 客員教授

主な個展

- 2001 「SAUCE」 ギャラリートラックス（東京）
- 2011 「清川あさみ | 美女採集」 水戸芸術館（茨城）
- 2012 「清川あさみ | 美女採集」 表参道ヒルズ スペースオー（東京）
- 2014 「TOKYO モンスター」 パルコミュージアム（東京）
- 2015 「清川あさみ—美採集—」 金津創作の森（福井）
- 2016 「ITOTOITO」 EYE OF GYRE（東京）
- 2017 「清川あさみ展」 美術館「えき」 KYOTO（京都）
- 2018 「千年後の百人一首原画展—糸で紡ぐ、歌人のこころ—」

- 両足院建仁寺山内（京都）
ADASTRIA 美女採集 by ASAMI KIYOKAWA」表参道ヒルズ スペースオー（東京）
2019 「Incarnation」 ARARIO GALELRY SHANGHAI（上海、中国）
2020 「imma」 フィリップス東京（東京）
2021 「あめつちのうた」 SBRICK（兵庫）
2021 「TOKYOMONSTER, reloaded」 銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM（東京）

主なグループ展

- 2009 「Stitch by Stitch 針と糸で描くわたし」 東京都庭園美術館（東京）
2017 「Unseen Photo Fair 2017」（アムステルダム、オランダ）
「重陽の芸術祭 2017」 智恵子の生家・智恵子記念館（福島）
2018 「SHARJAPAN： The Poetics of Space」
Al Hamriyah Studios（シャールジャ、アラブ首長国連邦）
「ART021 Shanghai Contemporary Art Fair 2018」
Shanghai Exhibition Center（上海、中国）
「高橋コレクション 顔と抽象」 清春芸術村（山梨）
2019 「PHOTO FAIRS SHANGHAI」 Shanghai Exhibition Center（上海、中国）
2020 「Taipei Dangdai 2020」 Taipei Nangang Exhibition Center（台北、台湾）
「Landscape and Books」 Pearl Art Museum（上海、中国）
2022 「N/World」 MtK Contemporary Art（京都府）

主な受賞歴

- 2004 ベストデビュタント賞（映像・グラフィック部門）
2010 VOCA 展入賞
2012 VOGUE JAPAN Women of the Year
2013 ASIAGRAPH 創（つむぎ）賞

草間彌生

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://yayoi-kusama.jp/>

1929 年、長野県松本市に種苗問屋の末娘として生まれる。幼少の頃より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。1957 年単身渡米し、巨大な平面作品やソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った環境彫刻を発表。1960 年代後半にはハプニングを頻繁に行い、ボディペインティングやファッションショーを展開、映画製作も行う。独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え、前衛芸術家としての地位を築く。1973 年に帰国後も国内外で精力的に作品を発表し、1993 年ヴェネツィア・ビエンナーレにおいて日本館では初となる個展を行う。2011 年にはポンピドゥ・センター、テート・モダンなど欧米 4 都市の主要美術館を巡回する個展を開催。2012 年、ルイ・ヴィトンからコラボレーション・アイテムがリリース。2016 年にはアメリカの「TIME」誌が選ぶ「世界で最も影響力のある 100 人」に選出され、同年、文化勲章を受章。2017 年、東京都新宿区に草間彌生美術館が開館。

略歴

- 1929 長野県生まれ
- 1957 単身渡米
- 1959 ニューヨークのブラタ画廊で個展を開きネット・ペインティングを発表
- 1966 ヴェネツィア・ビエンナーレの会場においてゲリラ的に《ナルシスの庭》を展示
- 1968 自作自演の映画『草間の自己消滅』がベルギー国際短編映画祭に入賞
- 1973 帰国し活動拠点を東京に移す
- 1993 ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表として日本館初の個展を開催
- 2000 第 50 回芸術選奨文部大臣賞受賞
- 2001 第 71 回朝日賞受賞
- 2003 フランス芸術文化勲章オフィシェ受勲、長野県知事表彰（芸術文化功労）受賞
- 2006 旭日小綬章受章、第 18 回高松宮殿下記念世界文化賞受賞
- 2009 文化功労者に選出
- 2016 文化勲章受章
- 2017 草間彌生美術館が東京都新宿区に開館

主な個展

- 1992 「草間彌生展 はじける宇宙」草月美術館（東京）、新潟市美術館（新潟）
- 1998 「Love Forever: YAYOI KUSAMA 1958-1968」
LACMA Los Angeles County Museum of Art（ロサンゼルス、アメリカ）、
MoMA Museum of Modern Art（ニューヨーク、アメリカ）、
Walker Art Center（ミネアポリス、アメリカ）
「草間彌生 ニューヨーク／東京」東京都現代美術館（東京）
- 2000 「Yayoi Kusama」Le Consortium（ディジョン、フランス）

- ※その後以下に巡回。
- パリ日本文化会館（パリ、フランス）、Kunsthallen Brandts Klædefabrik（オーデセ、デンマーク）、Les Abattoirs（トゥールーズ、フランス）、Kunsthalle Wien（ウィーン、オーストリア）、Art Sonje Center（ソウル、韓国）、Artsonje Museum（キョンジュ、韓国）
- 2004 「クサマトリックス」森美術館（東京）、札幌芸術の森美術館（札幌）
「草間彌生展」東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）、広島市現代美術館（広島）、熊本市現代美術館（熊本）、松本市美術館（松本）
- 2007 「Dots Obsession - Dots Transformed into Love」
Haus der Kunst（ミュンヘン、ドイツ）、Wiels Centre d'Art Contemporain（ブリュッセル、ベルギー）Grande Halle de la Villette（パリ、フランス）
- 2008 「Yayoi Kusama: Mirrored Years」Museum Boijmans Van Beuningen（ロッテルダム、オランダ）、Museum of Contemporary Art（シドニー、オーストラリア）、City Gallery Wellington（ニュージーランド）
- 2011 「Yayoi Kusama」
Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofía（マドリード、スペイン）、Centre Georges Pompidou（パリ、フランス）、Tate Modern（ロンドン、英国）、Whitney Museum of American Art（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「永遠の永遠の永遠」国立国際美術館（大阪）
※その後以下に巡回。
埼玉県立近代美術館（埼玉）、松本市美術館（長野）、新潟市美術館（新潟）、静岡県立美術館（静岡）、大分市美術館（大分）、高知県立美術館（高知）、熊本市現代美術館（熊本）、秋田市立千秋美術館（秋田）、秋田県立美術館（秋田）、松坂屋美術館（愛知）
- 2013 「Yayoi Kusama: Obsession Infinita/Infinite Obsession」
MALBA Museo de Arte Latinoamericano de Buenos Aires - Fundación Costantini（ブエノスアイレス、ブラジル）
※その後以下に巡回。
Centro Cultural Banco do Brasil（リオデジャネイロ、ブラジル）、Centro Cultural Banco do Brasil（ブラジリア、ブラジル）、Instituto Tomie Ohtake（サンパウロ、ブラジル）、Museo Tamayo Arte Contemporáneo（メキシコシティ、メキシコ）、Fundación CorpArtes（サンチアゴ、チリ）
- 2015 「Yayoi Kusama: In Infinity」
Louisiana Museum of Modern Art（フムレベック、デンマーク）
※その後以下に巡回。
Henie Onstad Kunstsenter（オスロ、ノルウェー）、Moderna Museet（ストックホルム、スウェーデン）、Helsinki Art Museum（ヘルシンキ、フィンランド）
「Yayoi Kusama: A Dream I Dreamed」Daegu Art Museum（テグ、韓国）
※その後以下に巡回。
Museum of Contemporary Art Shanghai（上海、中国）、Seoul Arts Center（ソウル、韓国）、Kaohsiung Museum of Fine Arts

（高雄、台湾）、National Taiwan Museum of Fine Arts（台中、台湾）

2017 「草間彌生 わが永遠の魂」 国立新美術館（東京）

「Yayoi Kusama: Life Is the Heart of a Rainbow」

National Gallery of Singapore（シンガポール）

※その後以下に巡回。

Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art（ブリスベン、オーストラリア）、

Museum of Modern and Contemporary Art in Nusantara

（ジャカルタ、インドネシア）

「Yayoi Kusama: Infinity Mirrors」

Hirshhorn Museum and Sculpture Garden（ワシントン DC、アメリカ）

※その後以下に巡回。

Seattle Art Museum（シアトル、アメリカ）、

The Broad（ロサンゼルス、アメリカ）、Art Gallery of Ontario

（トロント、カナダ）、The Cleveland Museum of Art（オハイオ、アメリカ）、

High Museum of Art（アトランタ、アメリカ）

近藤亜樹

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://shugoarts.com/artist/54/>

1987 年北海道生まれ、山形在住。「描くことは生きることそのもの」と言う近藤の作品は、質量として感じられるほどのエネルギーに満ちている。近藤は自身を通り抜けるいかなる経験や感情をも刻み込むように描くことで、記憶と現在、想像の世界を行き来して絵画という新しい体験を生み出している。

略歴

- 1987 北海道生まれ
- 2012 東北芸術工科大学大学院実験芸術学科終了

主な個展

- 2012 「たべる地球」シュウゴアーツ（東京）
- 2013 「近藤亜樹の生態」JIKKA(東京)
- 2015 「HIKARI」シュウゴアーツ（東京）
- 2016 「HIKARI」大和日英基金 大和ジャパンハウス（ロンドン）
- 2017 「飛べ、こぶた」シュウゴアーツ（東京）
- 2018 「あの日を待つ 明日を待つ 今日」シュウゴアーツ（東京）
- 2021 「ここにあるしあわせ」シュウゴアーツ/ フィリップス東京/ 現代芸術振興財団（東京）
- 2021 「星、光る」山形美術館（山形）

主なグループ展

- 2008 「アーティスト・イン・レジデンス金山町」（金山）
- 2010 「IWAKI ART トリエナーレ 2010」いわき市内各所（いわき）
「わかつてん:山形のアーティスト展」白鷹町文化交流センターAYu:M（白鷹）
- 2011 「4 人展 -絵画- 池崎拓也/石井友人/鹿野震一郎/近藤亜樹」シュウゴアーツ（東京）
- 2012 「PHANTOMS OF ASIA: Contemporary Awakens the Past」Asian Art Museum（サンフランシスコ、アメリカ）
- 2013 「VOCA 展 2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
「高橋コレクション展 マインドフルネス!」鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）、札幌芸術の森美術館（札幌）
- 2014 「ア・ターブル!—ごはんだよ! 食をめぐる美の饗宴—」三重県立美術館（津）
- 2015 「ミラー・ニューロン 高橋コレクション展」東京オペラシティアートギャラリー（東京）
- 2017 「美藝礼讃—現代美術も古美術も」セゾン現代美術館（軽井沢）
- 2018 「絵画の現在」府中市美術館（東京）

- 2020 「高松市美術館コレクション+ 身体とムービング」 高松市美術館（高松）
- 2020 「—INSIDE THE COLLECTOR'S VAULT, VOL.1— 解き放たれたコレクション展」
WHAT MUSEUM（東京）
- 2022 「VOCA 展 2022 現代美術の展望 —新しい平面の作家たち—」 上野の森美術館（東京）
「国際芸術祭あいち 2022」 愛知県—宮市（一宮）

クレア・タブレ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://www.clairtabouret.com/>

Instagram : [@clairtabouret](https://www.instagram.com/clairtabouret)

1981 年、フランスのペルチュワに生まれる。パリのエコール・デ・ボザールで学士号を取得。2005 年にはニューヨークのクーパー・ユニオンにて交換留学生として学ぶ。歴史書や雑誌の図版、ファウンド・フォトからインスピレーションを得た人物画や風景画を、表現力豊かな筆致と色彩によって描いた作品で知られる。2020 年には日本での初個展となる「LOCKDOWN SELF-PORTRAITS」をペロタン東京で開催。ロックダウン中に描かれたセルフ・ポートレーターのシリーズを発表した。ロサンゼルス・カウンティ美術館、ICA マイアミ、ダラス美術館、モントリオール美術館、テルアビブ美術館、ユズ・ミュージアム（上海）ほか、数多くの美術館のパーマネントコレクションに作品が収められている。

略歴

- 1981 フランス、ペルチュワ生まれ
- 2005 Cooper Union School of Art（ニューヨーク、アメリカ）交換留学
- 2006 École Nationale Supérieure des Beaux-Arts（パリ、フランス）卒業
- 現在、ロサンゼルスを拠点に活動

主な個展

- 2008 「L'Orangerie」 Château de la Louvière（モンリュソン、フランス）
- 2010 「Où est passée la journée d'hier？」 Galerie Isabelle Gounod（パリ、フランス）
- 2011 「Le carré noir」 Octobre（アミアン、フランス）
- 2012 「L'île」 Galerie Isabelle Gounod（パリ、フランス）
「C'était le printemps」 Yishu 8（北京、中国）
- 2013 「Sous les eaux, Voyons voir」 Art contemporain et territoire
（エクス＝アン＝プロヴァンス、フランス）
「De l'autre côté」 Espace d'Art Contemporain Les Roches
（ル・シャンボン＝シュル＝リニョン、フランス）
「Les Insoumis」 Agnès b（パリ、フランス）
「Prosôpon」 Galerie Isabelle Gounod（パリ、フランス）
- 2014 「Le regard, dedans, dehors」 [curated by Philippe Piguet] Chapelle de La Visitation
（トノン＝レ＝バン、フランス）
- 2015 「Les Débutantes」 Galerie Bugada et Cargnel（パリ、フランス）
「Duel au soleil」 [curated by Magalie Gentet] Le Parvis centre d'art contemporain
（タルブ、フランス）
- 2016 「Because of You」 Sade Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）
「Sparkling Ghosts」 Museo Pietro Canonica in Villa Borghese（ローマ、フランス）

- 「Battlegrounds」 Galerie Bugada & Cargnel (パリ、フランス)
- 2017 「Eclipse」 Night Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 「One day I broke a mirror, duo with Yoko Ono」 [curated by Chiara Parisi]
- Villa Médicis
- (ローマ、イタリア)
- 「Neptune」 [curated by Frédéric Bouglé] Le Creux de l'Enfer
- (ティエール、フランス)
- 「Claire Tabouret + Cash for Gold like Smoke for Mirrors and Land for Sea」
- [curated by Lauren Mackler] Friche la Belle de Mai (マルセイユ、フランス)
- 「The Dance of Icarus」 Yuz Museum (上海、中国)
- 2018 「Les Veilleurs」 Collection Lambert (アヴィニオン、フランス)
- Château de Boisgeloup (ジゾー、フランス)
- Eglise des Célestins (アヴィニオン、フランス)
- 「Peintures」 Collection Lambert en Avignon (アヴィニオン、フランス)
- 「I am Crying Because you are not Crying」 Almine Rech (パリ、フランス)
- 「I am Crying Because you are not Crying」 Château de Boisgeloup
- (ジゾー、フランス)
- 2019 「Born in mirrors」 Perrotin Gallery (香港、中国)
- 「If only the sea could sleep」 HAB Galerie (ナント、フランス)
- 「Portraits」 Almine Rech (ロンドン、英国)
- 2020 「The Pull of the Sun」 Night Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 「Siblings」 Galerie Perrotin (ソウル、韓国)
- 「La Ronde」 Musée des Beaux-Arts (ルーアン、フランス)
- 「Mirrors and Reflections」 Jordan Schnitzer Museum of Art (ユージーン、アメリカ)
- 「Lockdown Self-portraits」 Galerie Perrotin (東京)
- 2021 「Baigneuse Assise」 Musée Picasso (パリ、フランス)
- 「Paysages des d'intérieurs」 Perrotin (パリ、フランス)
- 「L'Urgence et la Patience」 Almine Rech (パリ、フランス)

主なグループ展

- 2015 「Peindre, dit-elle」 [curated by Julie Crenn and Annabelle Ténèze]
- Musée départemental d'art contemporain de Rochechouart
- (ロシュシュアール、フランス)
- 「Recto/Verso」 Fondation Louis Vuitton (パリ、フランス)
- 2016 「Vivre!」 [curated by Sam Stourdzé] Musée national de l'histoire de l'immigration
- (パリ、フランス)
- 2017 「Peindre, dit-elle – Chap 2」 [curated by Julie Crenn et Annabelle Ténèze]
- Musée des Beaux-Arts (ドール、フランス)
- 2021 「Present Generations」 Columbus Museum of Art (コロムブス、アメリカ)
- 「César & Claire Tabouret」 Musée Picasso Paris (パリ、フランス)
- 2022 「Women in Balance」 Museo Salvatore Ferragamo (フィレンツェ、イタリア)
- 「Women Painting Women」 Modern Art Museum of Fort Worth
- (フォートワース、アメリカ)

ジュリア・チャン

関連 URL ・ SNS 情報

Web : https://nanzuka.com/ja/artists/julia_chiang

Instagram : [@juliachiang](https://www.instagram.com/juliachiang)

1978 年、アメリカに生まれる。ニューヨーク大学にて美術史及びスタジオアートを専攻し、2000 年卒業。様々な素材を用いたペインティングや立体作品、インスタレーションを制作し、その作品にはしばしば言葉（シンプルフレーズ）や反復する紋様が用いられている。2012 年には Modern Painters 誌による「100 人の注目すべきアーティスト」に選ばれた。国内外で個展を開催し、日本では 2013 年と 2019 年、NANZUKA にて展覧会を開催。現在ブルックリンを拠点に活動。夫はアーティストの KAWS。

略歴

1978 アメリカ生まれ

2000 ニューヨーク大学卒業（Art History & Studio Art 専攻）

主な個展

- 2003 「Loves Me」 x-girl（ニューヨーク、アメリカ）
- 2007 「Again and Again」 Kantor / Feuer Window（ニューヨーク、アメリカ）
「Emigrate」 Travessia、a boutique & gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2010 「All For You」 The Standard Shop（ニューヨーク、アメリカ）
「Forever」 The Standard Miami Beach for Art Basel Miami Beach
（マイアミ、アメリカ）
- 2011 「Security Is Mostly A Superstition」 Half Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「Forever And Longer」 Colette（パリ、フランス）
「She's Crafty」 New Museum Shop（ニューヨーク、アメリカ）
- 2013 「In And Out And In Between」 Fuse Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Coming Together, Coming Apart」 NANZUKA（東京）
「That Side, This Side, No Side」 Bill Brady KC（カンザスシティ、アメリカ）
- 2014 「Hanging In, Hanging On」 New Museum Shop（ニューヨーク、アメリカ）
- 2015 「LET ME IN, LET ME OUT」 B2OA（ニューヨーク、アメリカ）
- 2019 「SPIT SWEAT SHHH」 The Modern Institute（グラスゴー、スコットランド）
「Pump And Bump」 NANZUKA（東京）
- 2020 「TENNIS ELBOW」 The Journal Gallery（ニューヨーク、アメリカ）

主なグループ展

- 2001 「The Worst of Gordon Pym Continued」 Printed Matter（ニューヨーク、アメリカ）
「To Market to Market」 [Curated by Robin Kahn] Rotunda Gallery
（ニューヨーク、アメリカ）
- 2002 「Holiday Shopping」 Wallspace（ニューヨーク、アメリカ）

- 「Dream Garden」 [a collaboration with Ryan McGinness] Deitch Projects
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2003 「The Theory of Relative Power」 [Curated by Franklin Sirmans]
Henry Street Settlement (ニューヨーク、アメリカ)
「Sustain」 Prospect Park (ニューヨーク、アメリカ)
- 2004 「Other Worlds」 Buia Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Primo」 Buia Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2005 「Red White Blue」 Spencer Brownstone Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「The Symbolic Defeat of Phi Slamma Jamma」 Melody Weir Gallery
(ニューヨーク、アメリカ)
「The Patch」 Spencer Brownstone Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Lovely Daze Book Launch」 Printed Matter (ニューヨーク、アメリカ)
「Copilandia」 [Curated by Robin Kahn] Centro de Arte de Sevilla
(セビリア、スペイン)
- 2006 「Everyday is different」 Michael Steinberg Fine Art (ニューヨーク、アメリカ)
「Summer Hot」 Taipei Cultural Center (ニューヨーク、アメリカ)
- 2007 「Holiday Shopping Show」 [Curated by Robin Kahn] Emily Harvey Foundation
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2008 「Back to the Drawing Board」 Michael Steinberg Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「Postermat」 The Hole (ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 「A Strange Affinity to the Beautiful and the Dreadful」 [curated by Maureen Sullivan]
Hendershot Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「January White Sale」 [curated by Beth Rudin DeWoody] Loretta Howard Gallery
(ニューヨーク、アメリカ)
「Contemporary Clay」 RH Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2012 「Figured」 Rotunda Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「East West Shift to the Middle」 Bill Brady/KC (カンザスシティ、アメリカ)
「autumn place」 NANZUKA UNDERGROUND (東京)
「Americana」 Grey Area (ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「Spring/Break Art Show」 Old School (ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「They Sicken of the Calm Who Know the Storm」 Fridman Gallery
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2015 「Friends Seminary Auction」 David Zwirner (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「MSD - Global POP Wave in the 21st Century」
CAC Málaga, Antiguo Mercado de Mayoristas (マラガ、スペイン)
- 2021 「Grouper」 Broadway Gallery (ニューヨーク、アメリカ)

キャサリン・バーンハート

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.davidzwirner.com/artists/katherine-bernhardt>

Instagram : [@kbernhardt2014](https://www.instagram.com/kbernhardt2014)

1975 年、アメリカのミズーリ州セントルイスに生まれる。School of the Art Institute of Chicago(シカゴ)で美術学士、School of Visual Arts(ニューヨーク)で美術学修士を取得。大画面のキャンバスに鮮やかな色彩を用いて、ガーフィールドやピンクパンサー、ミッキーマウスといったキャラクターや、ポップカルチャーのアイコンを描いた作品で知られる。近年では、フォートワース現代美術館、セントルイス現代美術館などで個展を開催。2017 年には「マニフェスタ 11」(チューリッヒ)にも参加した。

作品はカーネギー美術館(ピッツバーグ)、ハイ美術館(アトランタ)、ハーシュホーン博物館(ワシントン DC)、ポートランド美術館、ルベル美術館(マイアミ)ほか、数多くの美術館のパーマネントコレクションに収められている

略歴、個展やグループ展については下記をご参照ください。

CANADA オフィシャルホームページ 作家情報 URL

<https://www.canadanewyork.com/artists/katherine-bernhardt/resume/>

下記、上記の情報一部抜粋

略歴

- 1998 School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) 美術学士取得
- 2000 School of Visual Arts (ニューヨーク、アメリカ) 美術学修士取得

主な個展

- 2000 「Solo Show」 Team Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2001 「Concurrent Solo show」 Modern Culture at The Gershwin Hotel
(ニューヨーク、アメリカ)
「Perfunctory」 Team Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2002 「Nomad」 Loyal Gallery (マルメ、スウェーデン)
- 2003 「Concurrent solo show」 Kenny Schachter ConTEMPorary
(ニューヨーク、アメリカ)
「Dots」 Team Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Holiday Services, Katherine Bernhardt and Youssef Jdia」 The Hole
(ニューヨーク、アメリカ)
「Watermelon, Smiley Faces, Ice Cream, Popsicles, Avocado and Sun」 Roberto
Paradise (サンファン、プエルトリコ、アメリカ)
- 2004 「Pleasure and Paint」 Galerie Lisa Ruyter (ウィーン、オーストリア)
- 2005 「Out of Africa」 Galerie Lisa Ruyter (ウィーン、オーストリア)
「Women of the Forest」 Greener Pastures Gallery (トロント、カナダ)

- 「96 Degrees in the Shade」 CANADA（ニューヨーク、アメリカ）
「Where the Spirits Dwell」 Galería Comercial
（サンファン、プエルトリコ、アメリカ）
- 2007 「Stupid, Crazy, Ridiculous, Funny Patterns」 CANADA（ニューヨーク、アメリカ）
「Doritos and Diet Coke」 China Art Objects Galleries（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2009 「Fruit Salad」 Venus Over Los Angeles（ロサンゼルス、アメリカ）
「Pablo and Efrain」 Venus Over Manhattan（ニューヨーク、アメリカ）
「Strawberry Banana Power Smoothie」 Carl Freedman Gallery（ロンドン、英国）
- 2010 「Product Recall: New Pattern Paintings」 Xavier Hufkens（ブリュッセル、ベルギー）
- 2011 「Concrete Jungle Love」 Lever House Art Collection
（ニューヨーク、アメリカ）
「Karma」 Amagansett（ニューヨーク、アメリカ）
「Green」 CANADA（ニューヨーク、アメリカ）
「Focus: Katherine Bernhardt」 Modern Art Museum of Fort Worth
（フォートワース、アメリカ）
「Mural, Project Wall」 St. Louis Contemporary Art Museum
（セントルイス、アメリカ）
- 2013 「Mundo sandía」 MATE（リマ、ペルー）
- 2019 「Big in Japan !」 NANZUKA（東京）
- 2020 「VOODOO MAYO KETCHUP: Katherine Bernhardt, José Luis Vargas」
Carl Freedman Gallery（マーゲイト、英国）
「MayoKetchup」 Embajada（サンファン、プエルトリコ、アメリカ）
- 2021 「Hamburger Bacon Black Olive and Mushroom with Salted Caramel Pretzel Concrete
and Hi Fi Fo Fum」 Greenberg Gallery（セントルイス、アメリカ）
「Ahí donde no has llegao' sabes que yo te llevaré」 DiabloRosso
（パナマシティ、パナマ）
- 2022 「Katherine Bernhardt」 David Zwirner（ロンドン、英国） ※開催予定

主なグループ展

- 2000 「Snapshot」 Baltimore Contemporary Museum（ボルチモア、アメリカ）
※Aldrich Contemporary Art Museum（リッジフィールド、アメリカ）に巡回
- 2009 「Hard/Soft」 [curated by Stacy Engman] National Arts Club
（ニューヨーク、アメリカ）
「Deadliest Catch: Hamptons」 [curated by Michael Sellinger]
（ニューヨーク、アメリカ）
「Brooklyn, Queens」 [curated by Eddie Martinez] The Journal
（ニューヨーク、アメリカ）
「New York Minute」 [curated by Kathy Grayson] Macro Future（ローマ、イタリア）
- 2011 「The Influentials」 [curated by Amy Smith Stewart] SVA Gallery
（ニューヨーク、アメリカ）
「An Instance of Vibration」 [curated by Peter Makebish] Bowery Hotel

- (ニューヨーク、アメリカ)
「go figure」 [curated by Eddie Martinez] Dodge Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「Extravagant Features」 [curated by Clarissa Darlymple] (ニューヨーク、アメリカ)
「Skateboards」 [curated by Brian Alfred] Artware Editions
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「All That Glitters」 [curated by Athena Barat and Rebecca Jampol]
The Gateway Project (ニューヨーク、アメリカ)
- 2015 「Full of Peril and Weirdness: Painting as Universalism」
[curated by Robin Peckham and Wanwan Lei] M Woods (北京、中国)
- 2016 「Manifesta 11」 The European Biennial of Contemporary Art (チューリッヒ、スイス)
「Fort Greene」 [curated by Adrienne Rubenstein] Venus over
(ロサンゼルス、アメリカ)
「What's Up 2.0」 [curated by Lawrence van Hagen] 94 Portland Place
(ロンドン、英国)
- 2017 「A New Subjectivity」 [curated by Jason Stopa] Pratt Manhattan
(ニューヨーク、アメリカ)
「Hope and Hazard: A Comedy of Eros」 [curated by Eric Fischl] Hall Art Foundation
(レディング、アメリカ)
「Animal Farm」 [curated by Sadie Laska] Brant Foundation (グリニッジ、アメリカ)
- 2018 「Punch」 [curated by Nina Chanel Abney] Jeffrey Deitch Gallery
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2020 「We Fight to Build a Free World: An Exhibition by Jonathan Horowitz」
Jewish Museum (ニューヨーク、アメリカ)
「Global Pop Underground」 PARCO MUSEUM TOKYO (東京)

ジャデ・ファドジュティミ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://jedefadojutimi.com/>

Instagram : [@jedefadojutimi](https://www.instagram.com/jedefadojutimi)

1993 年、イギリスのロンドンに生まれる。スレード美術学校（ロンドン）で美術学士、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA・英国王立芸術学院）で美術学修士を取得。2021 年、史上最年少となる 27 歳でテート・コレクションに作品が収蔵され、同年リヴァプール・ビエンナーレに参加。日本のアニメーションを愛好し、物語、音楽、ランドスケープ、ファッションなど、アニメーションの様々な要素が制作のインスピレーションとなっている。RCA 在学中には、交換留学生として京都に滞在した。

2022 年には第 59 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展のメイン会場で行われる展示「The Milk of Dreams」への参加が決定している。

略歴

- 1993 イギリス、ロンドン生まれ
- 2015 Slade School of Fine Art（ロンドン、英国）美術学士取得
- 2017 Royal College of Art（ロンドン、英国）美術学修士取得

主な個展

- 2017 「Heliophobia」 Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン、英国）
- 2019 「She Squalls」 Galerie Gisela Capitain（ケルン、ドイツ）
- 「The Numbing Vibrancy of Characters in Play」 PEER UK（ロンドン、英国）
- 2020 「Jesture」 Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン、英国）
- 2021 「Yet, Another Pathetic Fallacy」 Institute of Contemporary Art（マイアミ、アメリカ）
- 2022 The Hepworth Wakefield（ウエイクフィールド、英国） ※開催予定
- 2023 Fondazione Sandretto Re Rebaudengo（トリノ、イタリア） ※開催予定

主なグループ展

- 2015 「Fire Sale」 Dynamite Gallery（サリー、英国）
- 「The Woon Sculpture and Painting Prize」 Baltic 39（ニューカッスル、英国）
- 2016 「Glorious Abandon, Dynamite Projects」 （レッドヒル、英国）
- 「Purple People」 Dulwich Festival Open House（ロンドン、英国）
- 「Art Attack Launch」 The Dot Project（ロンドン、英国）
- 「After presents: Glossary」 Safehouse 1（ロンドン、英国）
- 「Winter Exhibition」 The Crypt Gallery（ロンドン、英国）
- 「27th International Student Exhibition」 京都市立芸術大学ギャラリー（京都）
- 2017 「Griffin Art Prize,」 Griffin Gallery（ロンドン、英国）
- 「Degree Show」 Royal College of Art（ロンドン、英国）
- 「Under the See」 The Crypt Gallery（ロンドン、英国）
- 「Contemporary British Painting Prize」 The Stables Gallery、Orleans House（ロンドン、英国）
- 2018 「Hypnagogia」 Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン、英国）

- 「TWO x TWO for AIDS and Art (for amfAR and the Dallas Museum of Art)」
 Rachofsky Warehouse (ダラス、アメリカ)
- 2020 「With Wings That Beat」 Skarstedt (ロンドン、英国)
 「Infinite Games」 Captain Petzel (ベルリン、ドイツ)
 「Jahresgaben 2020」 Bonner Kunstverein (ボン、ドイツ)
- 2021 「Walk Through British Art」 Tate Britain (ロンドン、英国)
 「Infinite Games 2」 Captain Petzel (ベルリン、ドイツ)
 「The Stomach and the Port」 The 11th Liverpool Biennial (リヴァプール、英国)
 「Angespannte Zustände. Sammlungspräsentation Gegenwart」
 Staatgalerie Stuttgart (シュトゥットガルト、ドイツ)
 「OKETA COLLECTION: 4G, Spiral Garden, Tokyo, Japan」 Spiral Garden (東京)
 「Present Generations」 Columbus Museum of Art (コロンバス、アメリカ)
 「Mixing It Up: Painting Today」 Hayward Gallery (ロンドン、英国)
 「Grand Hans Purrmann Prize, Stadt Speyer」 Kulturhof Flachsgasse
 (シュパイエル、ドイツ)
 「Black Faces, White Spaces: Invisibility and Hypervisibility」
 Green Family Collection (ダラス、アメリカ)
- 2022 「Omelette papier」 Captain Petzel (ベルリン、ドイツ)
 59th Venice Biennale (ヴェネツィア、イタリア)

主な受賞歴

- 2015 Woon Painting and Sculpture Prize
 2017 Hine Painting Prize

ジェネシス・ベランジャー

関連 URL ・ SNS 情報

Web : https://www.perrotin.com/artists/genesis_belanger/490#images

Instagram : [@genesisbelanger](https://www.instagram.com/genesisbelanger)

1978 年、アメリカに生まれる。School of The Art Institute of Chicago（シカゴ）で美術学士、Hunter College（ニューヨーク）で美術学修士を取得。ベランジャーの作品は、パステルトーンの陶器とキャストコンクリートのオブジェでつくられた、ミステリアスなインスタレーションで知られる。身の回りにある日用品に人体の一部を組み合わせた彫刻は、魅力的であると同時に、わずかな不気味さを漂わす。彼女の作品に繰り返し登場するタバコ、医薬品、化粧品などのモチーフは、現代社会における資本主義と広告の影響を、象徴的に想起させる。

略歴

- 1978 アメリカ生まれ
- 2002 Rhode Island School of Design（プロビデンス、アメリカ）美術学士単位取得
- 2004 School of The Art Institute of Chicago（シカゴ、アメリカ）美術学士取得
- 2012 Hunter College(ニューヨーク、アメリカ) 美術学修士取得

主な個展・二人展

- 2017 「Cheap Cookie and a Tall Drink of Water」 Mrs. Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2018 「A Strange Relative, Genesis Belanger & Emily Mae Smith」 Perrotin（ニューヨーク、アメリカ）
- 2019 「Holding Pattern」 New Museum（ニューヨーク、アメリカ）
「Coins for the Ferryman」 François Ghebaly Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2020 「Through the Eye of a Needle」 The Aldrich Contemporary Art Museum（リッジフィールド、アメリカ）
「The Party's Over」 Rodolphe Janssen（ブリュッセル、ベルギー）
- 2021 「We Were Never Friends」 The Consortium Museum（ディジョン、フランス）
「Another Man's Treasure」 Perrotin（東京）
- 2022 「Sausage Party」 rodolphe janssen（ブリュッセル、ベルギー）
Perrotin（パリ、フランス） ※開催予定

主なグループ展

- 2011 「CAA MFA Exhibition」 Times Square Gallery, Hunter College（ニューヨーク、アメリカ）
「New Insight」 Art Chicago（シカゴ、アメリカ）
- 2012 「Thesis Exhibition」 Times Square Gallery, Hunter College（ニューヨーク、アメリカ）

- 2013 「Fresh!」 Outlet Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「Still Life」 Outlet Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2016 「Spring Break/Art Fair」 (ニューヨーク、アメリカ)
 「Nature/Gesture」 Project Art Space (ニューヨーク、アメリカ)
 「Frida Smoked」 Invisible Exports Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 「Happiness and Other Forms of Self Delusion」 Pioneer Works
 (ニューヨーク、アメリカ)
 「Scarlet Street」 Lucien Terras (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「Genesis Belanger, Melissa Brown, Roy de Forest, Mimi Gross」 Derek Eller Gallery
 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Body So Delicious」 Reyes Projects (バーミングハム、アメリカ)
 「Uncanny Memories」 Sophia Contemporary Gallery (ロンドン、英国)
 「Objects Like Us」 [curated by Amy Smith-Stewart and David Adamo]
 The Aldrich Contemporary Art Museum (リッジフィールド、アメリカ)
 「Liquid Dreams」 François Ghebaly Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
 「Distortions」 Nathalie Karg Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Group Show」 Howard's (アセンズ、アメリカ)
 「No Patience For Monuments」 Perrotin (ソウル、韓国)
 「Magnetic Fields」 [curated by Cecilia Alemani] Gió Marconi Gallery
 (ミラノ、イタリア)
 「Dark Laughter」 [curated by Barry Schwabsky] Pippy Houldsworth Gallery
 (ロンドン、英国)
- 2020 「A Love Letter to a Nightmare」 Petzel Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 「Good Pictures」 Jeffrey Deitch (ニューヨーク、アメリカ)
 「Artists for New York」 Hauser & Wirth (ニューヨーク、アメリカ)
- 2021 「Time Takes a Cigarette」 Josh Lilley (ロンドン、英国)
 「Neue Sachlichkeit (New Objectivity)」 Contemporary Fine Arts (ベルリン、ドイツ)
 「Bitter Nest」 Perrotin (東京)
 「The Shoo Sho」 [curated by Julie Curtiss] Anton Kern Gallery
 (ニューヨーク、アメリカ)
 「Clay Pop」 Jeffrey Deitch (ニューヨーク、アメリカ)
 「Anniversary」 Mrs. Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022 「WOMEN」 ARKEN Museum for Moderne Kunst
 (イースホイ、デンマーク) ※開催予定
 MoMu Fashion Museum (アントワープ、ベルギー) ※開催予定
- 2023 「Day Jobs」 Blanton Museum of Art (オースティン、アメリカ) ※開催予定

タラ・マダニ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.davidkordanskygallery.com/artist/tala-madani>

タラ・マダニ（1981 年、イラン、テヘラン生まれ）は、絵画やアニメーションを制作し、その鮮明なイメージはジェンダーや政治的権威、芸術において誰が何を表現するのかという疑問について考察し、様々な批判様式を融合しています。彼女の作品には、肉体を限界まで酷使している主に裸の頭髪が薄くなった中年男性が登場します。彼らの開口部からは体液と光線が現れ、絵の具が持つ独特の触感を表現するためのメタファーが生み出されています。マダニの作品では、スラップスティックなユーモアは暴力と切り離せず、創造は破壊と同義であり、現代のあらゆる種類の力の不均衡に対する複雑かつ根源的な展望を反映しています。彼女の具象へのアプローチは、モダニストのラディカルな形態学と、現代のシーケンス、動き、スピードの感覚を組み合わせたものである。そのため、彼女の作品は、漫画や映画、その他の一般的な耐久性のある形式において最も力強く発信することができています。2022 年にタラ・マダニはロサンゼルス現代美術館でキャリア半ばの回顧展を開催する予定。

過去には、Start Museum, 上海（2020）、森美術館（2019）、セセッション館, ウィーン（2019）、Portikus, フランクフルト（2019）、パナセ, モンペリエ（2017）、MIT リスト・ヴィジュアル・芸術センター, ケンブリッジ（2016）、セントルイス現代美術館（2016）、ノッティンガム・コンテンポラリー（2014）、ストックホルム近代美術館、マルメ近代美術館、ストックホルム（2013）など世界の多くの美術館で個展を行っている。最近では、第 16 回イスタンブール・ビエンナーレ The Seventh Continent（イスタンブール、トルコ、2019）やホイットニー・ビエンナーレ 2017（ホイットニー美術館、ニューヨーク）、Made in L.A. 2014（アーマンド・ハマー美術館、ロサンゼルス）など多くの国際グループ展に参加しています。マダニの作品は、ストックホルム近代美術館、マルメ美術館（スウェーデン）、グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、ロサンゼルス現代美術館、ニューヨーク近代美術館、ステデライク・ミュージアム（アムステルダム）、テート・モダン（ロンドン）、森美術館、ホイットニー美術館（ニューヨーク）などの施設でパーマネントコレクションとして収蔵されています。マダニは、ロサンゼルスを拠点に活動しています。

略歴

- 1981 イラン、テヘラン生まれ
- 2004 Oregon State University（コーバリス、アメリカ）BFA
 （Visual Arts、Political Science）取得
- 2006 Yale University School of Art（ニューヘブン、アメリカ） MFA（Painting）取得

主な個展

- 2006 「Cake Men」 Oregon State University（コーバリス、アメリカ）
- 2007 「Smoke and Mirrors」 Lombard-Freid Projects（ニューヨーク、アメリカ）
- 2008 「ASS・AS・SIN: hashish anyone?」 Lombard-Freid Projects

- (ニューヨーク、アメリカ)
- 2009 「Dazzle Men」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
- 2010 「Pictograms」 Lombard-Freid Projects (ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 「Manual Man」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
「Tala Madani: The Jinn」 Stedelijk Museum Bureau (アムステルダム、オランダ)
- 2013 「Tala Madani: Catherine Doctorow Prize for Contemporary Painting」
Utah Museum of Contemporary Art (ソルトレイクシティ、アメリカ)
「Tala Madani: Rip Image」 Moderna Museet Malmö (マルメ、スウェーデン)、
Moderna Museet (ストックホルム、スウェーデン)
- 2014 「Tala Madani」 Nottingham Contemporary (ノッティンガム、英国)
「Tala Madani: Abstract Pussy」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
「Tala Madani」 Centro Andaluz de Arte Contemporáneo (セビリア、スペイン)
- 2015 「Smiley has no nose」 David Kordansky Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2016 「First Light」 Contemporary Art Museum St Louis (セントルイス、アメリカ)、
MIT Visual Arts Center (ケンブリッジ、アメリカ)
「Shitty Disco」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
- 2017 「Tala Madani」 La Panacée (モンペリエ、フランス)
- 2018 「Corner Projections」 303 Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Oven Light」 Portikus (フランクフルト、ドイツ)
Vienna Secessions (ウィーン、オーストリア)
「MAM プロジェクト 027 タラ・マダニ」 森美術館 (東京)
- 2020 Start Museum (上海、中国)
- 2021 「Chalk Mark」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
「Skid Mark」 Pilar Corrias (ロンドン、英国)
- 2022 「Tala Madani」 MOCA (ロサンゼルス、アメリカ) ※開催予定
Kunstmuseum Den Haag (ハーグ、オランダ) ※開催予定

主なグループ展

- 2007 「Size Matters: XS-Recent Small Scale Paintings」 Hudson Valley Center for Contemporary Art (ピークスキル、アメリカ)
- 2008 「Size Matters: XXL-Recent Large-Scale Paintings」 Hudson Valley Center for Contemporary Art (ピークスキル、アメリカ)
- 2009 「Unveiled: New Art from the Middle East」 Saatchi Gallery (ロンドン、英国)
「The Generational: Younger Than Jesus」 The New Museum
(ニューヨーク、アメリカ)
「The Symbolic Efficiency of the Frame」 4th Tirana International Contemporary Art Biennial (ティラナ、アルバニア共和国)
- 2010 「Touched」 The 6th Liverpool Biennial (リヴァプール、英国)
「The Future of Tradition, The Tradition of Future」 Haus der Kunst
(ミュンヘン、ドイツ)
「Greater New York, Neville Wakefield, and Connie Butler」 MoMA P.S.1
(ニューヨーク、アメリカ)

- 「Framed, Drawings in Motion」 The Drawing Center, Smartspaces
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 「Between my Head and my Hand, There is Always the Face of Death」
Portland Institute for Contemporary Art (ポートランド、アメリカ)
「Open House」 Singapore Biennale (シンガポール)
「Speech Matters」 Danish Pavilion at the 54th Venice Biennale
(ヴェネツィア、イタリア)
「He disappeared into complete silence」 Museum De Hallen (ハーレム、オランダ)
- 2012 「De Volkskrant Prijs (De Volkskrant Art Award)」 Stedelijk Museum Schiedam
(アムステルダム、オランダ)
- 2013 「NO BORDERS: Contemporary art in a globalised world」
Bristol Museum and Art Gallery (ブリストル、英国)
「PLAY! Recapturing the Radical Imagination」 Göteborg Biennial
(ヨーテボリ、スウェーデン)
- 2014 「In the Near Future」 The Museum of Modern Art (ワルシャワ、ポーランド)
「Where are we Now?」 5th Marrakech Biennale (マラケシュ、モロッコ)
「Dramedy」 Forth Worth Contemporary Arts (フォートワース、アメリカ)
「Made in L.A. 2014」 Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ)
「The Great Acceleration: Art in the Anthropocene」 Taipei Biennial (台北、台湾)
- 2015 「Get Rid of Yourself: America is Hard to See」 Whitney Museum of American Art
(ニューヨーク、アメリカ)
「Black & White Mike」 Center for the Arts Eagle Rock (イーグルロック、アメリカ)
「Alfred Jarry Archipelago: La Valse des Pantins – Acte II」 La Ferme du Buisson
(ノワジエル、アメリカ)
- 2016 「The Distance of a Day」 The Israel Museum (エルサレム、イスラエル)
「On Space and Place: Contemporary Art from Chicago, Los Angeles, Mexico City and
Vancouver」 DePaul Art Museum (シカゴ、アメリカ)
「Invisible Adversaries」 The Hessel Museum of Art, Bard College
(アナンデール＝オン＝ハドソン、アメリカ)
「Malerei als Film」 Kunsthalle Darmstadt (ダルムシュタット、ドイツ)
- 2017 「Zeitgeist」 Musée d'art Moderne et Contemporain MAMCO (ジュネーヴ、スイス)
「Los Angeles – A Fiction」 Musée d'art Contemporain de Lyon (リヨン、フランス)
「National Gallery of Victoria Triennial」 (メルボルン、オーストラリア)
「Made Masculine」 Museum of Art at the University of New Hampshire
(ニューハンプシャー、アメリカ)
「Whitney Biennial」 Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)
「Prospect 2017」 Museum of Contemporary Art San Diego
(サンディエゴ、アメリカ)
「Desire: A Show about sex, love and lust」 Museo de Arte Moderno
(メデジン、コロンビア)
- 2018 「First Person Plural: Empathy, Intimacy, Irony and Anger」 BAK
(ユトレヒト、オランダ)
「Mademoiselle」 Centre Regional d' Art Contemporaine Occitane

(セート、フランス)

- 2019 「On Vulnerability and Doubt」 Australian Center for Contemporary Art
(メルボルン、オーストラリア)
「16th Istanbul Biennale」 (イスタンブール、トルコ)
- 2020 「The World: From THE OKETA COLLECTION」 金沢 21 世紀美術館 (石川)
「Dallas Biennial 2020」 PRP Gallery (ダラス、アメリカ)
「OKETA COLLECTION: A NEW DECADE」 Spiral (東京)
「Anticorps」 Palais de Tokyo (パリ、フランス)
- 2021 「MOTHER!」 Louisiana Museum of Modern Art (フムレベック、デンマーク)
「Above Us Only Sky!」 Nitja Senter for Samtidskunst (リレストレム、ノルウェー)
「A Higher Calling」 White Space (北京、中国)

山下紘加

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.hyamashita.com/>

Instagram : [@a i r oh](#)

1991 年、兵庫県に生まれる。18 歳で単身アメリカに渡り、School of Visual Arts で美術学士、Mason Gross School of the Arts で美術学修士号を取得。2019 年に帰国し、現在は岡山を拠点に活動。日本の里山での生活を通じ、自然と人とのつながりや、日常の景色から思い起こされたイメージを描く。西洋画の系譜に日本画の特徴的な画面構成を織り交ぜつつ、新たな絵画空間が生むストーリーや観賞者との関係性に挑戦している。

略歴

- 1991 兵庫県生まれ
- 2017 School of Visual Arts (ニューヨーク) 美術学士取得
- 2019 Mason Gross School of the Arts (ニューブランズウィック) 美術学修士取得
現在、岡山を拠点に活動

主な個展

- 2017 「Young Mountain」 Ns Art Project (大阪)
- 2019 「Hiroka Yamashita」 Tanya Leighton Gallery (ベルリン、ドイツ)
「融とおる」 Higashiyama Building 301 (岡山)
- 2021 「コスモスは思い出した」 THE CLUB (東京)
「project N84 山下紘加」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 2022 「Fūdo」 Tanya Leighton Gallery (ベルリン、ドイツ)

主なグループ展

- 2016 「Future Critical」 508 W 26th street (ニューヨーク、アメリカ)
「Brokedown Palace」 SVA Chelsea Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「MFA First Year Exhibition」 Mason Gross Galleries
(ニューブランズウィック、アメリカ)
- 2018 「Intimate Strollin」 SBC studio (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Like a Day」 21 Ludlow street (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「All Conditions」 Mason Gross Galleries (ニューブランズウィック、アメリカ)
- 2020 「Timelessness」 THE CLUB (東京)
「高木大地、ルシア・ビダレス、山下紘加」 タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2021 「Evanescence Horizon」 FOMO (台北、台湾)
「Dancing in Dark Times」 Pippy Houldsworth Gallery (ロンドン、英国)
- 2022 「THEIR PRIVATE WORLDS CONTAINED THE MEMORY OF A PAINTING THAT

HAD SHAPES AS REASSURING AS THE UNCANNY FOOTAGE OF A
SONOGRAM」 Matthew Brown Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)

ロッカクアヤコ

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://rokkakuayako.com/>

Twitter : [@rokkakuayako](https://twitter.com/rokkakuayako)

ロッカクアヤコ (1982 年 -) 千葉市出身のアーティスト。20 歳頃から独学で絵をはじめ、絵筆を使わず手に直接絵の具をつけ、段ボールやキャンバスに描き始めました。

村上隆氏の主宰するアート・イベント「GEISAI」に参加し、2006 年にスカウト賞を受賞して以降評価を高め、その後 2011 年にオランダのクンストハレ美術館、2012 年にはスロバキアのメレンスティーナ・ダヌビアーナ美術館でそれぞれ大規模な個展を開催。ヨーロッパをはじめ国際的に注目を集めると、拠点をアムステルダム、ベルリンと移し現在はポルトガルを拠点に活動しながら作品を発表しています。2020 年には千葉県立美術館にて大規模個展を開催しコロナ対応のなか約 1 万人の来場を記録しました。

ロッカクは初期から一貫して、自身の手触りの中でイメージを発見し、身体性を伴う指のストロークとネオンカラーのカラフルな色彩感覚によって抽象画的ランドスケープの中を漂う少女を描きます。その少女はアニメ的とも捉えられるアンバランスな手足に大きな瞳と力強く引かれた唇を持ち、アンファンテリズムと抽象性、そしてアジア人女性という作家のバックグラウンドを同時に感じさせることで独創性と多様性を獲得しています。そしてそれらの要素が渾然一体となり、ポジティブなイメージとして発することでより多くの人に作品を届けることに成功しています。

背景の色彩は尽きることなく溢れ出るように動きを増し、瑞々しい輝きを放つ色彩世界を繰り広げています。

略歴

1982 千葉県生まれ
現在、ポルトガルを拠点に活動

主な個展

2006 GARELIE AAA (パリ、フランス)
2007 「Walking around cloud」 Gallery Delaive (アムステルダム、オランダ)
Galerie Moderne (シルケボー、デンマーク)
「Rokkaku Ayako Exhibition」 Galerie Teo (東京)
2008 Juliana Gallery (ソウル、韓国)
Galerie Wild (フランクフルト、ドイツ)
2009 San Carlo Gallery (ミラノ、イタリア)
「girl in moment」 Guy Peters Gallery (クノックヘイスト、ベルギー)
2010 「About Us」 VACANT (東京)
「About Us」 Gallery Delaive (アムステルダム、オランダ)
2011 「Colours in my hand」 KUNSTHAL Museum (ロッテルダム、オランダ)

- 2012 「Where the smell comes from」 Danubiana Meulenstein Art Museum
(ブラティスラバ、スロバキア)
- 2014 「Never ending love letter」 Gallery Target (東京)
- 2015 「Lumpy Fluffy Splatter」 gallery trax (山梨)
- 2016 「Sealed Reminiscence」 Gallery Delaive (アムステルダム、オランダ)
- 2017 「ramblings' habitat」 gallery trax (山梨)
「OBSCURA」 Gallery Target (東京)
- 2018 「Bright wind, another step」 Gallery Delaive (アムステルダム、オランダ)
- 2019 「Fumble in colors, tiny discoveries」 Museum Jan van der Togt
(アムステルダム、オランダ)
- 2020 「魔法の手 ロッカクアヤコ作品展」 千葉県立美術館 (千葉)
- 2021 「BORN IN THE FLUFFY JOURNEY」 KÖNIG GALERIE Berlin (ベルリン、ドイツ)

主なグループ展

- 2015 「FULL HOUSE」 Gallery Target (東京)
「Swatch Faces 2015 at 56th Venice Biennale」 Arsenale TESA100
(ヴェネツィア、イタリア)
- 2017 「Cat Love. Nine lives in the art」 Kunsthal Rotterdam (ロッテルダム、オランダ)
- 2018 「Perpetual Colors」 PHILLIPS X (香港、中国)
「25th Anniversary in gallery trax vol. I」 gallery trax (山梨)
- 2020 「Oketa Collection - A NEW DECAD」 Spiral Garden (東京)
「Oketa Collection - The World : From the OKETA COLLECTION」 金沢 21 世紀美術館
(石川)
- 2022 Frieze Los Angeles (ロサンゼルス、アメリカ)

細江英公

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.takaishiiigallery.com/jp/archives/8727/>

1933 年、山形県に生まれ東京で育つ。18 歳の時に富士フィルムが主催する「富士フォトコンテスト」学生の部で最高賞を受賞。東京写真短期大学（現・東京工芸大学）に入学後、デモクラート美術家協会を主催する瑛九と交流を深め、既成概念に挑む独自の芸術観を確立する。1956 年に初の個展「東京のアメリカ娘」を開催。翌 57 年には、写真評論家の福島辰夫の企画による「10 人の眼」展に参加。これを機に、川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、奈良原一高とともに写真家集団・セルフ・エージェンシー「VIVO」を立ち上げ、当時主流の「リアリズム写真運動」に対抗し、より「私的」かつ「主観的」な写真表現を展開した。

1963 年、三島由紀夫をモデルに撮影した『薔薇刑』で日本写真批評家協会作家賞を受賞。70 年には秋田の農村を舞台に舞踊家の土方巽を撮影した『鎌鼬』で芸術選奨文部大臣賞を受賞した。50 年代より人物の描写に重要な成果を残し、その功績は国内外で高い評価を獲得している。

略歴

- 1933 山形県生まれ
- 1951 『ポーディちゃん』で「富士フォトコンテスト」学生の部・最高賞受賞
- 1954 東京写真短期大学（現・東京工芸大学）卒業
- 1960 個展「おとこと女」で日本写真批評家協会新人賞受賞
- 1963 三島由紀夫をモデルに撮影した『薔薇刑』で日本写真批評家協会作家賞受賞
- 1970 秋田の農村を舞台に舞踊家の土方巽を撮影した『鎌鼬』で芸術選奨文部大臣賞受賞
- 1998 紫綬褒章受章
- 2003 英国王位写真協会より創立 150 周年記念特別勲章を受章
- 2006 アメリカのルーシー・アワードにおいてビジョナリー賞（Honoree / Visionary Award）を日本人初受賞
- 2007 旭日小授章受章
- 2008 毎日芸術賞受賞
- 2010 文化功労者に選出
アメリカのナショナル・アーツ・クラブにおいて写真部門の生涯にわたる業績賞（Medal of Honor for Lifetime Achievement in Photography）を日本人初受賞
- 2017 旭日重光章受章

主な個展

- 1989 「写真・細江英公の世界」国立国際美術館（大阪）
- 2000 「細江英公の写真 1950-2000」山形美術館（山形）
- 2006 「球体写真二元論：細江英公の世界」東京都写真美術館（東京）
- 2021 「細江英公の写真：暗箱のなかの劇場」清里フォトアートミュージアム（山梨）